

第3章

課題の設定と解決の視点 — 過渡期の智恵と実践力 —

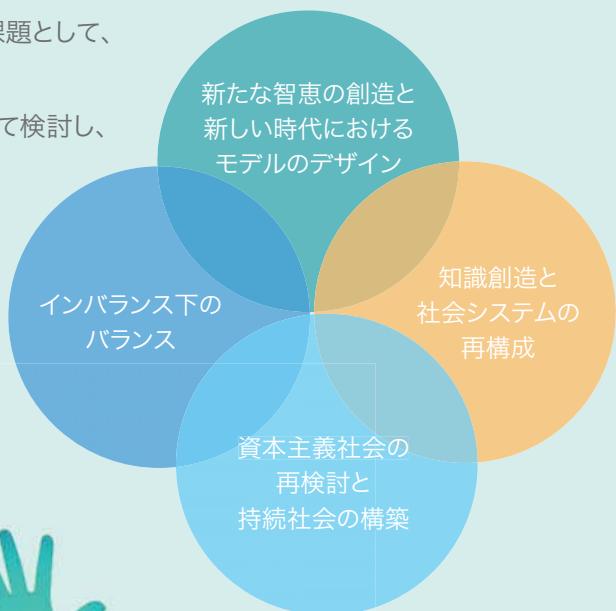
第1章と第2章で述べた高等研の理念と責務、時代認識・世界観を踏まえて、

過渡期としての21世紀の前半をカバーして検討すべき課題として、

付録に示すような多くのものが上げられた。

これらのうち今後高等研が取り組むべき研究領域について検討し、

当面考えるべき活動の問題意識は次の通りとした。



1. 新たな智恵の創造と新しい時代におけるモデルのデザイン

地球上の誰もが幸福に暮らせる社会、持続可能な地球を実現するためには、国や民族のみならず、宗教、言語、多様な文化を超えて認め合い、「寛容」と「互恵」を根本に、新たな思考の枠組みと智恵を創出し、新たな社会の秩序やシステムをトータルでデザインしていくかなくてはならない。この一環として、日本人の伝統的な価値観や精神性を考慮に入れる。

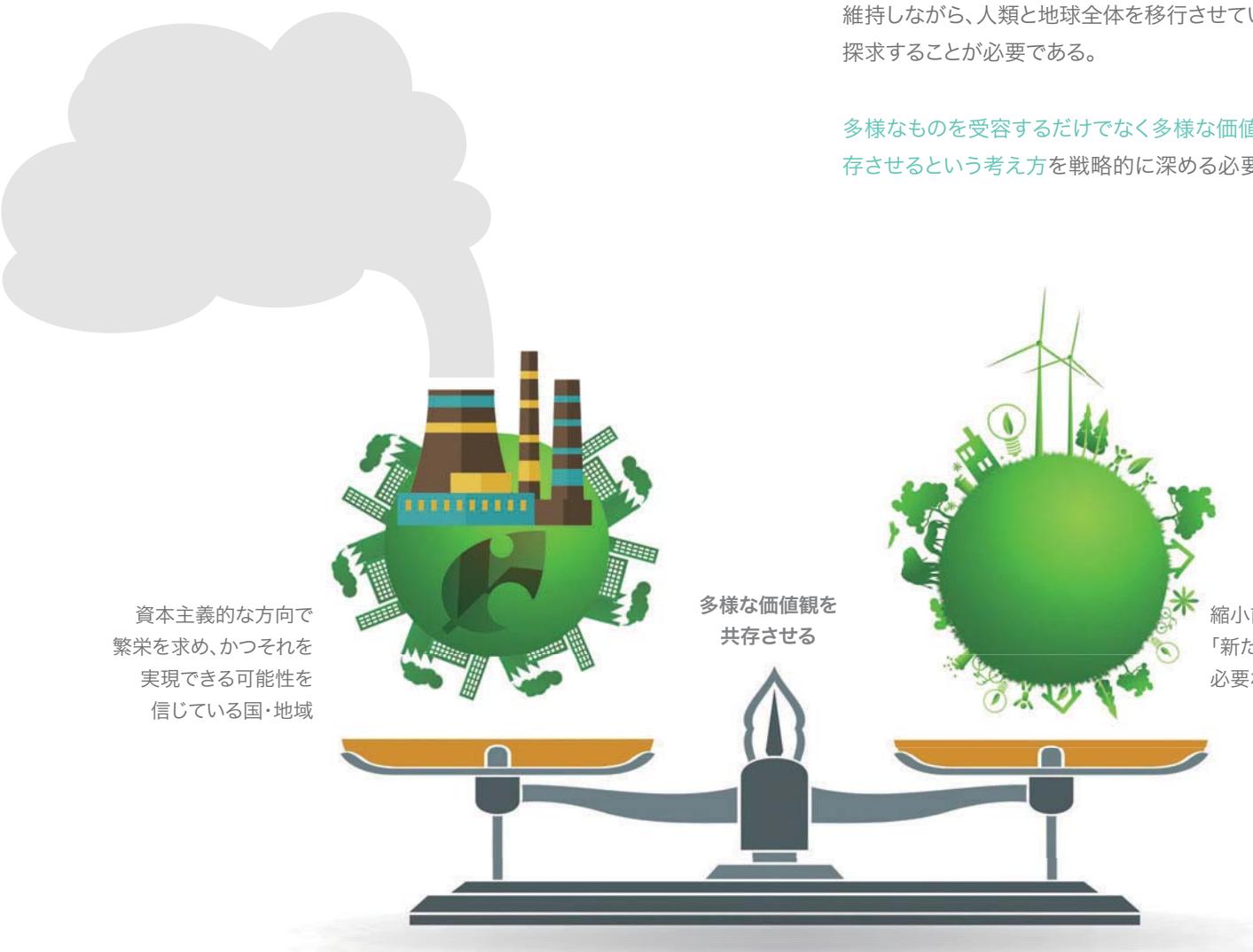
日本をはじめとする先進国においては、人口が縮小していくことは、もはや決定的であり、縮小モデルを構想せざるをえない。その縮小モデルを土台にして、世界の中で存在価値を示すような国になるという新たな「持続可能型先進国モデル」を考え、提案することが重要である。



2. インバランス下のバランス — Wisdom in Transition —

21世紀前半の人類と地球のあり方を考える時、縮小前提の「新たなモデル」が必要な国・地域と、一方で、なお人口増加があり、生産力を上げ、資本主義的な方向で繁栄を求め、かつそれを実現できる可能性を信じている国・地域が併存するという過渡期の不確実で危険なインバランスが想定される。これを、どういう形で調整し、よいバランスの中に、人間の尊厳を維持しながら、人類と地球全体を移行させていくかを探求することが必要である。

多様なものを受容するだけでなく多様な価値観を共存させるという考え方を戦略的に深める必要がある。



3. 知識創造と社会システムの再構成

人類全体としてみると、集中的な投資を受けている分野もあるが、教育・学術・科学技術・文化・安全・医療・自然・景観などへの資本投資が相対的に乏しく偏在しているように見える。この弊害を解消し、個人の安寧と社会的安定性を確保するため、資源配分のあり方を検討する必要がある。

現代の知識の創造と社会経済システムのメカニズムを俯瞰し見直し、過渡期を超克し、新しい価値と持続的なダイナミズムをもった人類と地球に移行するための哲学と方法について検討することが重要である。

4. 資本主義社会の再検討と持続社会の構築

地球資源が有限であることがますます明らかになってきている中で、従来の資源を利用しつくし、利潤を上げる資本主義をどうすべきか、地球社会を、できるだけ永続させていくためには、[地球上のすべての活動](#)が相互循環的で、できるだけエネルギー損失の少ない、持続可能な社会システムを構築しなければならないが、これをどう設計すべきか、などについて真剣に検討する必要がある。特にグローバル資本主義、貧富の差の拡大の問題について、これからどうすべきかの検討が必要である。

